

キエフからヤルタまでの 1 人旅

三木恵子（枚方市）

「渡辺節子の旅：スラブの故郷ウクライナとマジャールの故郷ハンガリー16日間」(2008年9月23日～10月8日)に現地参加するまで、1週間オランダで過ごした後、キエフ・ボリスピリ国際空港に着いてヤルタまでの1人旅の体験です。

キエフ空港からシンフェロポリへ

1,500年以上の長い歴史のある首都キエフ、空港には余り英語表示が見当たらない。英語の分かる人を探すのに一苦勞。入国手続きは遅くて長蛇の列(イライラ)、やっと出て来た荷物は荷物の上に荷物が乗って途中コンベアーから落ちた荷物を整理する人もいない。出口は雲助のようなタクシー運転手が八の字に隙間なくギッシリ並んでおり、薄暗く何となく異様な光景。

シンフェロポリ行きターミナルを尋ねるとBだと、Bに行きインフォメーションの若い女の子に切符を見せて尋ねるとAだと言う。AだBだ、AだBだと尋ねる人皆が違う答え。まったく当てにならない。サービス精神が全然なく不親切。旧社会主義国の悪い体質そのまま。乗り換え時間のない私には困った問題だった。



キエフ・ボリスピリ国際空港Bターミナル

結局、Bでしたが狭いところに座る椅子がないので大勢の人が立ったままで、チェックインカウンターは隠れて見えない。AからBターミナルの通路は屋根なしの水たまり、汚い不法駐車の間隙をぬっての移動。乗り遅れ

た飛行機の切符の手配にAターミナルへ、やっと出発までこぎ付けたものの、出口が分からない。まさかと思った壁の所に閉まった粗末な旧式トイレのドアのようなものが3つあるのを発見。出発間際にやっと狭い1つのドアが開くと、そこにセキュリティチェック用の機械が見えた。これがキエフの空港？雨の時大きな荷物を持ってどうして移動するのかなと思いながら1時間半の飛行機の中ではグッスリ。

ヤルタでガイドさんに聞いてみると10年以上前から建て替えの話はあるが実現していないとのこと。しかし、後日訪れたキエフの列車の駅もガイドに案内してもらった観光名所も上記のような旧式のものを見当たらず、重みのある歴史を感じさせる立派なものでした。

シンフェロポリからヤルタへ

空港からシンフェロポリのバスターミナルまで空港の待合室で知り合ったイレーナさんのご主人の車で送ってくれた。シンフェロポリ駅前の広いバスターミナルは行き先の分からない薄汚れたバスでいっぱい。

世界最長のトロリーバス路線に乗り換えて2,752メートルの山脈を越えて夜8時頃ヤルタへ。2時間半のバス代は12グリブナー。約240円位。ずーと外の景色を見ていたが、5時半頃だったので、車内は労働者風の通勤帰りの人で満員。窓は泥はねで汚く、カーテンは薄汚れて破れ、座席はスポンジが飛び出し、床は泥だらけ。黒海の海岸線の景色を期待していたが、飛行機の遅れで暗くなってしまい見えず残念だった。

やっと着いたヤルタの最終バスターミナルで下車する人は2～3人。広く、薄暗いターミナルも余り人がおらず、タクシーを利用。ホテルまでさきにタクシー料金を要求され、暗くて間違えて20ユーロ札を渡してしまい、しまったと思ったが言葉が通じないので返せとも言えない。渡した私が悪いとあきらめていたら運転手さんは自分で両替所で換金、正直にお釣りを現地のお金で返してくれたのにはこちらがビックリ。当たり前と言えば当たり前なのだが。10分位で無事ホテルに到着。600円位のタクシー代は日本並みか。東京からモスクワ経由で来られた方たちと夜12時頃ホテルで合流。ホッとした瞬間でした。